

プログラム名	親子三世代 「知恵のトライアングル」	
実施団体	○団体名：宮城県地球温暖化防止活動推進ネットワーク ○代表者名：菅谷 匡 ○電話：022-373-7002 ○FAX：022-373-7002 ○住所：仙台市泉区泉中央 2-25-2 ラポール泉中央 408 ○E-Mail：epa-tsug@amber.plala.or.jp	
対象者	小学5～6年生、中学生	
対象人数	30人まで	
学習場所	屋内(教室、体育館、市民センター、公民館など)	
学習時間	45～90分の範囲で調整可能	
実施時期	通年	
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	取材シート、グループワークシート、参考資料写真 年代シート、メッセージクロス(やる木)、昔の道具数点
	利用者側	筆記用具
事前打ち合わせ	取材シートの記入内容説明のため、実施日の2週間前までに面談必要	
効果的な学習段階	昔から現代までの生活を学習している段階	

学習概要	1. 学習のねらい	
	自然を上手に利用して暮らしていた昔の人の知恵を知り、今後の自分の生活に活かそうとする態度を育てる。 ・身近な人に学ぶ、地域に学ぶ大切さの発見 ・みんなで知恵を出し、創意工夫する楽しさの発見	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	<p>①取材シート 学習実施の1～2週間前に、先生を通じて児童に「取材シート」を配布。</p> <p>②自己紹介</p> <p>③今日の学習のめあてを確かめる</p>  <p>④昔の人の生活の知恵や工夫を知る</p> 	<p>①父母、祖父母、地域の人々を巻き込んだ、家族や地域での楽しい学びがあることを再発見してもらう。</p> <p>②昔の道具を提示し関心をもってもらう。</p> <p>③道具は何を燃料(エネルギー)にしていたのか、何の力で道具が動くのかを考える学習…仙台市の交通の変遷を見る。</p> <p>④グループワークを通して、昔と今の道具について、それぞれの世代での道具の違いなど、みんなで意見を交換し合い、先人の知恵や工夫を知り、グループの意見をまとめる。</p>

⑤見つけた昔の人の知恵や工夫をみんなで伝え合おう

⑥自然やエネルギーについて考えてみよう



⑦わたしの宣言

「地球にやさしい暮らし方を考えてみよう」



⑤グループ発表を通して、話し合いで一致した意見や一致しなかった少数意見を発表し、様々な考え方がある事も知り、それを伝え、共有する。

⑥豊かさ(便利さ)を求める先人の知恵は、石炭・石油を発見し、燃料【電気・ガスなど】に利用するのみならず、生活道具の原料としての利用を図る事により、大量に化石資源を消費し、大量に道具を生産してきた。エネルギー源の変遷により地球環境が急激に変化し、自然の気候変動の波動を超えて温暖化に向かっていることを知る。そして、これからの生活には児童生徒の知恵や工夫が必要であることに気付く。

⑦各自の生活の中での省エネの環境生活宣言をし、身近な生活の道具の使い方に注意をはらって地球温暖化防止に貢献をするよう促す。

4. 学習のまとめ

児童が、父母や祖父母(近所の高齢者)の時代の生活道具の話題を通して、時代の道具(エネルギー源)の変化を知り、身近な人や地域に学ぶ大切さ、みんなで知恵を出し創意工夫する楽しさを見つける。最終的には、環境問題は世代間で受け継がれる問題であり、他人事ではなく自分事である事に気付く。だから、環境問題解決には一人ひとりの行動が必要であり、身近にできることの行動が大事であることに気付く。自分がどのような生活を目指して知恵を使うかで、私たち地球人の未来は変わります。

追加・変更できる
学習内容

PTA 行事の一環として父母参観での実施も可能。ただしこの場合、学習の3週間前に、教師及び父母との事前打ち合わせが必要。

事前・事後学習
についての助言

雨天時の学習内容

変更なし

プログラムの詳細

<http://www.feel-sendai.jp/program/chie.html>